

武庫川の治水計画における土砂流出対策について

奥西一夫

1. 大北氏の意見書と土砂問題に関わっている委員の責任

大北氏の指摘は正しい。しかしこれに答えることは困難。

データが決定的に不足

実務経験に基づく意見を述べるのが極めて困難

客観性のある予測（土砂流出の歴史的経過に基づく）の困難

2. 武庫川が抱える土砂流出の問題

主な土砂生産源

武庫川渓谷

六甲山地（大多田川，有馬川など）

ニュータウン地域

支流の急傾斜山地

3. 歴史認識（客観性の担保を欠くことをお断りする）

先史時代の大規模崩壊

六甲山地には巨大崩壊の跡地と考えられる地形が散在。逆瀬川上流にもある。

このような巨大崩壊が再度起こる可能性は不明。兵庫県南部地震の影響も不明。

平安・鎌倉・室町時代の武庫川（西宮市史からのぞき見る範囲で）

河口近くには入り江があり，地形的に安定（土砂流出は少なかった）

江戸時代後期に全国的に起こったはげ山化

武庫川流域も例外でなく，むしろ六甲地域以上の荒廃があったらしい。その影響が現

在も残っている可能性がある。しかし詳細は不明

明治以降の砂防工事

砂防工事の経過から，逆にそれ以前の荒廃の状況をあぶり出せる可能性がある。

逆瀬川流域に堆積した土砂と本川に流出した土砂

「武庫川扇状地」（宝塚市役所周辺）の成因と将来予測

仁川流域の過去の荒廃と将来予測

武庫川の天井川区間の成因と将来予測

4. 武庫川ダム計画と土砂流出問題

5. 武庫川が本来持つべき川幅と土砂流出問題